

Improvement Of Teaching Methods(2)

授業とは

校長

保護者が教員に一番期待する像は、授業力のある教員といわれます。授業は、教員の教授活動、生徒の学習活動、教材の三つの構成要因からなり、この三者が相互関係のなかの動的な過程です。これが意味することは、授業は教員から見れば教授行為であり、生徒から見れば学習活動であり、授業は教授と学習という活動が表裏一体となっていることを意味します。

教員が教科書やプリントを用い、教科書やプリントの空欄を、生徒に説明しているだけでは授業とは言いがたいのです。教員の教授過程は、生徒が知識や技術などを獲得していく学習過程でなくてはなりません。

授業のポイント

1. 教員が教えたいことを、生徒に学ばせたいことに転化させます。
2. 生徒の主体的な学習活動を引き起こす。どのように思考力を働かせるか考えます。
3. 授業前に、①生徒の実態把握、②意欲・関心を引出す教材・教具③授業の道筋が分かる課題・ねらい、④思考と表現を促す発問、⑤授業を振り返ることの出来る板書、⑥生徒の学習する姿を思い浮かべられる指導方法等を考えます。
4. 人文科学、社会科学、自然科学における概念や法則、構造等、抽象的で見えないものを、教材を用いて見えるもの、具体的なものとして授業を行います。
5. 授業を成立させるには、教材・教具づくり、生徒に対する働きかけが重要な教授技術です。しかし技術主義に陥らず、自らの教材解釈と生徒の理解の上、授業構成を考えてください。
6. 教員が授業をコントロールできなくてはなりません。アクティブ・ラーニング型の授業でも、教員が各単元をきちんとコントロールして行わなければ「這いまわる」授業になってしまいます。

注意点

1. 授業が静かに、計画どおりに出来たからといって生徒の学習活動が十分であったと考えてはいけません。生徒が知識や技術を獲得するために、十分な思考や、探究があったのか、生徒の学習活動を保障することに心がけます。
2. 自分の日々の授業を振り返り、授業改善のために不断の努力を行い、教授能力の向上に努めます。